關秘錄

六

和書門
類 一八七九三 號
函 一三〇 架
冊 八 四

内閣文庫
和書
類 一八七九三 號
冊 八 函 一一二 架
(六 冊)

漫筆

内閣文庫
番號 和 18793
冊數 8 (6)
函號 211 292

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

開秘録巻之六

一山姥の事

一枕草子の箱

一おいらかの鬼しこぶ

一若菜の巻、床の事

一こりもとりの

一らんの花

一百人一首寄合の骨髄

一勅許の宣旨

一人丸の衣

一三ッ瀬川

一非業人の姿

一人丸の忌日

浅草文庫

一かひ屋
一虎のいきたる
一山猿山姑
一たちぬぬ日
一白粋
一かざみ
一能乃天冠
一あらたこだのみたるよを
一停年乃月
一塩のやせあひ
一法紋 他の条
一万遠の寄
一きたるの物衣
一物衣まを条内事
一公業指撰の心
一半節の変
一扇る中語古弁ぬ
一白楽天
一上為石事
一蟬磨乃事
一三上山
一法形弟
一地蔵を語たるみ乃力事
一遠弁乃狂
一強い深見の訓
一男之馬の亦時寄
一四ノ宮河原
一池田の長ノ浪無節
一陵鹿乃社
一吉法二合の事
一弓の節名訓
一頭度魚

一 東三條
一 古川せきの勅
一 雨皮形箱
一 肩抜の袋
一 かるかの神
一 烏帽子乃事
一 雄略帝御製
一 二四さい
一 熊栗の梱カ
一 ようてう
一 檜垣の能服唐衣の事
一 筆の軸ハ巴書事
一 和哥ハ十字
一 法皇法衣の事
一 板子
一 古き連歌の杉折の字
一 連歌懸硯書ハ用捨
一 源氏物語羅の表紙。ちをのぐるま
一 さし
一 大小の巻
一 遣縄
一 強ふりのうれいとしの事
一 うむ字ハ青の事
一 菖蒲川
一 巻紙中
一 多山の絵
一 暦の面水路糧の前後
一 けぬき討術伝
一 日暮乃里
一 かぢ紙

一 機屋の機拵
一 うりもの
一 うまの代の事
一 かるのきぬ
一 能将衣の事
一 田のきのさるぬ
一 うりふし染
一 あぜの事
一 ゆまのさかてを切
一 乞衣の事

一 山ふこい山ぜ。踏形り。山ふこと云事。源氏ハ只一所
有り右近が初瀬ハ多て。五節ハ遠ゆ事を詠り
て源氏ハ張ふこと。おりと形し山ふこと云也
一 義経山に住ハ。源氏の藤袴の時。節ハ品宮ハ
おしゝかハ。鬼ことを知りハめと云用有。扨の類
不多ハ。いと必得ふこ皆とハ等形り。誠ハ鬼と
ことを只ゆめと中心ハ少きはハ中ふるハ。幸流(ユキメカ)ふ皆
よろしきと文作形と

一 白氏文集。巻の字漬(ヨミ)の次(ツイテ)に梅花の巻。巻子(カンス)まさに
五寸と云白紙(ウハガミ)薫(カホル)紙(ガミ)なるの有。きて五十八紙。十五
枚なる巻子(カンス)と書。巻子面白き事枝(エダ)なりと作
幸海中上。慎(ツシミ)て似(ニ)海文(カイブン)の心紙(ウハガミ)を用(モチヰ)
ゐる事。奇(ヨ)めと学ぶ。中上(チウジヤウ)なる。公威心(コヰシン)なり

一 若葉の下に清(キヨ)き女(ヒメ)宮(ミヤ)。黒(クロ)き髪(カミ)は床(トコ)の下(シタ)
いづきあつまりたる。床の中の紙と宗恒(ムネツネ)等
作(ツクル)し。帳(チヤウ)に云。三尺(シヤク)四方。三尺一尺半。巻子
四つ合せて。上(カミ)を平紙(ヒラガミ)。巻(マキ)。四方の帳紙(ヒラガミ)なる。柏(カシハ)
床の上。四隅(シグウ)なり。帳。中(ナカ)めて用(モチヰ)る。一間(ヒトマ)に二枚づた
ひ(ヒ)なり。内(ウチ)よ(ヨ)リ丁(キテウ)と云(イフ)。一つの時。枕の上(カミ)に一文字
なり。二つの時。八の形(カタチ)なり。下の畳紙。清(ユカ)床と云(イフ)
清(ユカ)敷(シキ)なり。大理の清床(ユカ)。牛の皮にて伏(フセ)けるなり
三事有。昔陣の床(トコ)清床(ユカ)敷(シキ)。大臣(オトド)の人其
上(カミ)に座して行(ヤウ)と軍(イクサ)けるなり。今も紫震殿清
涼殿(ウ)に床有(アル)人不知(シラ)と云(イフ)云

一 若紫の色ゝ花の子成御(セゴ)龍こゝろゝゆりけふりのそと
なり。扨ゝ多入ゝ公法と云ゝるゝやとゝゝ紙高檀紙前ゝ
等添ゝ。伝尼の扨ゝる。玉藻(タマモズイ)葉ゝゝ方ゝ一年有栖川
殿四位ゝ方。月次角ゝ組ゝ。ゝ法の
圓蓋(キリカコ)ゝ方ゝ扨ゝ。ゝ扨ゝ法ゝ
と法ゝゝ扨ゝ

一 相壺ゝ。源氏の母。死去の時板屋ゝ。十五ゝ位板ゝ
て一条禅閤ゝ。ゝ書ゝ。書ゝ文(ブンヒヤウ)表

ゝ子ゝ法ゝ立坊ゝゝゝ腋者の沙汰ゝ源氏
ゝ例ゝゝ。又源氏ゝ板の前。ゝゝゝ
ゝ事。ゝゝゝ書ゝ。ゝ名ゝゝ。ゝゝ書
ゝゝ一ゝの品ゝ。ゝゝゝ。ゝゝ。ゝ菓
ゝ者。ゝゝゝ入て。ゝの枝ゝゝゝゝの枝ゝ
ゝ人ゝ板ゝ方事ゝ
一 紅葉ゝゝ四侍ゝゝの御ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ御ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

御けはひとしとい。御髪ぬけさせる事也。源内侍さ
ぶらと。梅津うちぎの人。是別人ぶらと。清くとのつ人
と。御髪ぬけさるふ人とのの。あ返あり。清ものごとぬ
あるあるひとうちきと者さる所ぬ紅之。扨ぬ。御門の
紫の清直衣と為るとて。きうる人を清うちぎの人と是
是は男の事仕さる事と。俗ある物ら
一 ぬぢだかぬの事ぬ蘭の事をかゝるはしてやぬ
ひとるけん。らぬの品のいと上りうちきを清り

けるぬみさの情ぬりさゝ入てと有所ぬ
扨ぶ邸のあるやつる物ぬぢかぬ
者はかけよかさとかるも
さまを清様ぶるぶ
一 三瀬川といい。三途川の事かと。御等有方所ぬ。
ぬと反ぶぶ云事ぬぬ有ぬと四等有。地蔵菩
如經ぬ。等祈最之男る之所と有ぬ。源氏
枝柱の者ぬ。御身のさき洗ぬ。ぬさけぬ

ちんと有しかも世中文の口と中上。拾遺五章
ぬ宮ぬ乃集ぬて
歎まし各のこ源引こ新川我ぬ
かけんりのこやいんこ
一源平大概こ入ぬる歌。新勅撰。百人一首ぬ者。平忠盛
卍ぬ。ちかいぬ有ぬ。義朝ぬ義朝ぬ。源平
大概ぬ乃お書ぬ出さまこや。百人首ぬ歌ぬ
の貴賤をあらいし給へこと。

一後光明院の時より。淑義人ぬ始ぬり。官位ぬき
ぬ形りぬ取ぬ。例異ぬど反人ぬどぬはるまりのぬ
古ぬ安の後ぬしこと。今ぬ加ぬれの社家ぬを勅ぬ
一忠仁公
年ぬ生ぬ。齢ぬ老ぬぬかはあまこ
ぬをしんぬまは。あらひぬ
御姫様ぬ乃こぬ。ぬりのぬをこと云ぬ
有ぬ者ぬ摂政大臣ぬ経ぬ。始こ位宮ぬ値。栄花の

定上にて。万機の政なれども心に任せらるゝまゝには神なる
事なき威勢。されども心に。発したる事も是より起る
の威。次第にかうしたりと公音にも物語なり

一 菅公内府。勅許の宣旨。私宅にて清涼殿也。ケ様の
事は関白にて。下々下事成るに。御堂関白よりケ様
に成来りて。臣下の栄花きはまりし。王威かろく
なりしより成しと源なりて

一 書紀の物語に。人丸の忌日は。秘して来なりて古今に

知る人ぞしるなりし。三月十八日也。影供は。卅日なりし。云
像の顕筆の彩色は六月 夢よりつたへしなり

一 菅公は伝へ云。人麿の絵像よ。神の御見給ふ事有。誤て
継神と云。されば歌はあらん。其下の夜ありてもかくより
つたへ来る歌を書るなりと

一 書紀の物語に。かのやいを説有。像成には康光也。
冠服は烏帽子をかけるなりて

一 停年の月は。空の光中にかくへきなり。歳日にても

あき。この志津ゆ有月い。皆俗年月史

一虎い紙ときゝ寿新撰古帳有。為家ゆ大酒を
もそかし紙。るの為氏ちゆ任せんとさゝるゆ
神去いあうぞこそ。任ぞゆ何を又はと。弓去ゆ妨して
為氏神去ゆ任ぞしゝは。為家ゆきま紙恋情して
よゝきしゝ妨ゝと

女子ゆ。神の儲ゆしゝこかし

為船の金物の祝ゝゆ

夫日ゝゆさかし。梅聞妨ふは。雪降ゝゆせば辛ゝ。
ゝゆこかしゝゝ事。能聞ゆふ妨ゝと

一酒のやせあひゝは。八百合と書ゆも。四方よゝて
酒の満合ゝさるかい紙。八百合ゝゝ史

一たちぬいぬ日ゝは。七月七ゝかい紙いゝ妨ゝ

一蒙求ニ後漢ノ梁鴻ガ妻。孫壽。墮馬髻（ダバケイ）折
腰（エウ）歩（ホ）齣（シセウ）笑（シウ）愁眉（シウビ）啼粧（ナキソウ）之事。愁眉
ゝ。眉紙顰（ヒソメ）て紙ゆ紙ゆ紙ゆ事。啼粧

そ。あれ和尚仏なりて。目の下に拭ひ帰る
さいさいとほひとなりて。陸馬繋そ。馬より墮
きぬ。繋いぬ。ものかし。さいさいとよりて繋とも去とけ
形く。四方来る事。折伏なりて。柳樹に撞りて
去ぬやうにあひる事。齶崖に知そ。笑とも齶痛
ひさいさい知と不見去に成所く事なり
一書紀あ考ぬ云心所若の事は。一句句別この事に
云ふ所ふ形とと。第紫集ぬ考えい。信るのうぬ。所の

松去無代答ぬ。こびさそのさ
家背るの横鼻禅の法乃はるを石。特の牛
乃鞍上の公
法下筆の蟻のそうに。馬はかいて形
を法の形がるも
一
お草の山頂南ぬ方ぬ。一足ぬして反窪ぬ足跡。
二指雄と山猿さ云又山丈垣穏 嶮と山猿と云又路安 昔よりと
鬼と画ぬ。二指ぬかくと。云。九列ぬて山丈成ぬ道

さ事ともこれはなの形ある物

一 能の衣装の法式云々の有りたい幾頃と下書也

一 右件の白牛（又赤牛信作赤熊説也）時代物云。牦牛の尾の形ち。色長

さ如此。是を有て。為に旌旄纓帽又毛ハ雜白

也色之者、以茜染紅色云々能衣装の中の。赤沢

の沢の云是成べし。右牛の毛きハ。黒きハ勿論也

一 狩衣の袖の。ぎつきつの形衣と方ハ。紋ガ

の事そ。奥儀の事

一 かさつ汗衫と書あり。刑部の汗衫と云たら

人有りぶ。童女のうハきの形。袴をあるも事ハ

しさつ事ハ事形ちとちて方ハ平めていな

事も有ものの形。形様集兼品寄

物人の様ふるもの如ふ

かさみのさてその中き学ぶかし

一 狩衣ハ主用の事ハ。御幸の時信奉

の堂上方。狩衣ハ用ふ事も有ハ出仕

みはなき事也。能なるに。卒都婆小町にきする衣の袴
かけ為てと有ける其人浄衣と云ひわろくの説なるハ指
貫にも袴にも二つく成てうましざる者常衣乃
袴として狩衣の事なきにかせあるものなり。今云所
着と云も同じ心成へし

一 能の天冠と云物ハ。天子御童躰の時。着御し給ふ日形
の冠と云物也。空頂黒幘の冠ハ太子童躰の時
めさるゝものなり。能なれバ。鬘屋の立圃作しつる今世の

内裏鬘といふものの女の着せらるゝハ誤り也。女人ハ。釵子
平額又ハ云んぬくなどと云物のかざりなど。日形の冠ハ
なき事なるを能にも月形にして用る事なる事也

一 玄奘掟撕の心法佛国国師よみ誤りて
なくてぬ的引ぬるめてもなり失ハ
あつらへなるまつまさうとけるを
放下僧の謡にかし直して入つる佛国禅師
ハ夢窓国師の師匠なりとて

一 采女の謡にあめつちこらのことよりよこて花開香出
あるを仏法流布の種久しとは。薬艸喩品の心なりと
夫ハ濃緑とろこと木のみとる事もかなんとその文字を入
るゝにハ仏なりと。たゞこれを云ハなしハの字は有にお文
字。なまじゐなるとだにお横合しても誤りよりの文字
下ゟ有左衣は消るゝ也。たゞハの仮名遣もあると
一 半蔀の東は夕顔の花の精と心得るるハ。思ひ違ひ成事
なりと。源氏物語の夕顔の上の。幽霊なる事謡よみ分

なる也。或は芭蕉に色き長緒の上落せるゝよし同しきも也
王摩詰が画に雪中の芭蕉を書たるハ。傳りと云
事にて。諸の芭蕉の精の事にてハなし。既に雪中の
芭蕉の俳もなきを皆下ハ紙ひよなきもさもの
女と云ふ事にて仏なれば。かへ様の趣ひよ。神用なると
云ともなハ大きなる筋違なりと
一 扇子中語と云古歌ハなし。末廣とハ古今に有なり
一 謡ハ濘足の訓にて。音節の事也。笛ハ弦ふの訓

小敦春
大敦夏
古敦秋
笛冬

なて長の強て調るといふ。敦い筒(ヒキ)の濃い調なり
古敦もはみなり小大の文字なり。古の文字紙
書て。古續(コヒヨミ)なるなり。相ふい能の散事(サンカウ)也。古敦乃
臺い世古相ふ師相てしてもの多のなりこと後
夾臺て古相ふ成なと似(シカ)乗ふ。今のかぶの臺
成なり。此為法師の四百枝の夾臺とんなり。まて法て
自画讃の自像(ゾウ)なり笛敦うちて自画しる其中
なる敦いてんとよござんなて

一玄楽天の青苔帝衣裳懸い肩の白い。江漢(ウ)なり
詩の中乃白なり。古作者は紙
一扶桑拾葉集の。紀の貫之道中なて。馬の病紙
初見平方。かき貫之とあるもわるなる古歌あり
ふしぎなことは。なりの屋しやそ。と力紙面直て
蛾通の紙紙作りなる多紙なと
一東海道赤坂なこ云ふ長福寺と云寺力。家の上篇
石ふ屋。世古赤坂の長(ナガ)寺(ヒ)の前と云紙名

力なり。因の史将軍の大江の定基と契り深かりしと。女房はかりけるに、愛物の念石と成りしなり。定基も源勢の弓の張形と。九ウ相ひ共に剃髪して出家して。寂照法師と云て。長保二年に渡唐あり。宋の景門寺なる千年の松の枝の石の角を以て。石橋の体をしるしの形と

同書に四の宮河原に明天皇第四の宮。人康親王の為に形ちとなり。是も偽成なりとて。宮あるいとて

一 本朝逸史に蟬麿は武部に敦忠親王の新宅の冥の門番。道祖神なり。蟬丸とは誤なり

一 沙田の宮長の嫁無邪とて者有。強に作て。いつもの書に方々と知る人形。是は定信宮大夫師時。述作の書に。長秋記と云ものあり。此書の中に。長の姫無邪の事ありと

一 三条の通に住まいしも京の蜀士と云もの。[illegible]から竟孝卒に士りし川蜀士の招きさ面新と通く

云上の山の沼の事

一 陸奥の社。古事記に見えし。大山津みの神の姫。名は
所多邪比賣と云人の陸奥の国に
陸奥の国の沼形と云国は
一 懐妊して。お月満て産む事成と云事を結胎産と云
世事産底と云書ぬ有
一 言語二合の事い輟畊録と云書ぬ有。或い小ぬと形
と云(井)と云(きと)と云(ふと)と云(ふと)とけと云数形と

一 夫系紫栄。地名成源と云ふ。所方。ぬと云い石列
石郡山と。いと云山と讀と古人心は喜て。後の山と
讀して主世ぬ誤り成沼。古かつもとふ。小形と。ぬふ
かつとの讀と。ソつくぬと方。地名と心はて。未考国郡で
して。地名と云ふ。皆古代景物。神き初降初降き
ぬ物形て。正〜地名と云ふぬ物。よぬふ。一ッ成
知ざる誤り形と
一 ちの節乃名所哥

姫反　八幡　梅檀　矢摺節　目　引懸

内竹の名で

蒲冠　矢陰　取肩　宛行小　手下　乙腰

乙節ハ外

一　為家卿の書き作花抄ハ返辛乃所。数多書

き中ハ鶏鵜也

おりゐぬるものゝ云ハきハ所やちも

おりゐぬるものゝ云ハきハ所やちも

いゝ所ハ云ハ所

おりゐぬるものゝ云ハきハ所やちも

いゝ所ハ云ハ所

鶏鵜小町の雲の上ハの辛ハ十訓抄ハ方と一字乃

返辛ハ十訓けきハ作りしものや十訓抄ハ。仁俊河間

刹の作めて。河かゝの事も書きハ。ハき名と未

代まても。ゆさゝとの報言より所と

一　下学集ハ。調度急ハ爲帽子の緒也と有。帽爲

るハからぬかゝるの所きハ。上頭巾も云也。東漫

方と也の

一 松岡玄達遠江ゟ。麓〳〵と云と云書ゟ。東三條乃森と有と。今浜場東。岡崎の南ゟ有。藤の森と云と云誤〳〵。東三條兼家の屋敷迎閑院の屋内書と陳ゟ。は屋の内ハ。ゟ条堀川ゟ南ゟ有と云と云

一 九月の末熊栗の梱かくと云事有さ。と。梱〳〵云字と書ゟ。いろ〳〵 仮方。たるハ 度 て。金 ゟを載ゟ百の事有と。ゟこの栗ゟ栗ゟ有て。穴の中の土ゟ掻 て 埋め置事有と栗は殆〳〵安きゟ有ゟ。津軽ゟ。熊の梱と云て九月比。山の大木のもとゟかくゟけ。又かくを山ゟうけて。まゟ〳〵梱き 殆 ゟ木の枝と折て。かくゟ高さ七尺も有。何の為ゟ。もゟ〳〵。其ゟ登ゟて有ゟ中ゟと。猟者語ゟ有ゟ。栗と渋ゟたるゟ也と

一 大川せきの和ハ。桃尋郡〳〵。さ也相ゟ。翁ハ白虎通ゟ也。孫ゟ云。從五位下ゟ。位口ゟて八町ゟ場ゟと。上古ゟ也と云ゟ仮 玄仲静

一 樓前にてとゝ云ハ。中山大納言の北の方と
ゆゑ有る書ゆゑ有り。樓前と。對馬音ゆゑ。よくてゝと
云ひ有。對馬音は新羅の音なり
一 安宅乃瑞ゆ。岌の上ゆい。兩皮形和と云い面皮い。今の
世の相撲と云。形和は。藤氏北家の相撲を入る。家の
事なり。左板東。入。修験者なり。入ゝ知る人ゝと
ゝなり。是なり。藤氏將來と書て。そみかゝたも
よむなりと。形和の後なり

一 檜垣の能の狂い。源東陵と云て。座位や。淀城天満宮
宮寺の位なり。北條國崇の。崇嵩ゆ石像の。新
芝居ゆ。其岩洞の上ゆ。篆字なて。靈崇洞の三字と
書。檜書ゆて。東陵書の。三字ゆ。彫刻せり。筆勢
北健なり。陳詠略志ゆ
一 節會なるの時。廣なて。扇撥の答なて。酒。四科和
乃上なて。諸臣ゆ下し給ふ事あり。此所い。酒五ゆ
たひたひけるゆ。なゝ人ゆ事ゆ。元なりなりなり。乱酒

めぬきて。筋代おて郢曲代調。そ俗馬乗の。羽の篦

秉キヒトハ公文抄源ニ 小の郢曲の出しめは

ふのさぐまて少ゆふい。西天竺乃

たちち地

又雅の郢曲の出しぬい

ふしさゆしこちんじのかみ。巴書ちふ

うんで乃地下器

ちけこの羽の内ぬ有さく。篦の地ぬ巴と書事

古安ぬ乃ぐ其古重こいう事。ちの事ち出た

と。ち射ふは。押ふの徒の。脇有ち。大指ち。脇ぬて

四角ぬて。弦張ぐちてぬ指ち。ふと白形ち。おしも

鞨ぬは赤ひ。靭トモ ぐいすの史蕃の徒ち〇〇ぬけ三ツ

うじのざぐちしさ花梅代加ぐ放鞨ぬ絵と云義ぬし

巴形と。そ押ふの拳も丸き形。箭のかぐ代つまむ

も丸き形の美とちの引けふかち三ツと有て

〇〇ぬ元事。そは芒つぎ早工射ぬふぬ。ぐまく

さいとく。語る事有り。能のごとくめづらしく心をつけて。画
かるべし。此能のうつる心を云しるべし。筆尾に多の能
どうこころる事有り。うじまさとしとり心をつけて筆
の神とも。巴流画かるべし。今くちの絵より出るる
古こそかるべし。異国の巴のたくみ
かるべくとも。まい舞かるべし。神の役
ゆ巴ゆかる事。右の古筆ゆめて。能のとりくして。哲ひ
とゆもとかる事とうとの心と思いるべかる。まも除き

神楽もかるべし。筆の心ゆる巴書古筆と出さんとて
郢曲ゆも郢の事と好のて能をとりの
一高良の神ぶくしのゆかくのたくみと云い古きくみ
くせの法るりの好て。直をとかるべし。平家和絵源氏絵
るゆ。書古きよりみを開合の法よりて事古多
一家称のも出をさいとく。和音五十字ゆ日本一切の言葉
音好。反切。そるゆ出るゆる事好。又をと一字剣として。
母訓とも云。堂上ゆも。音とく秘せらるる事。此上小夫ご

云訓の事なり。是は一人の物語の事なり。
仮名毎訓あり。天子云訓や。天子は
いかゝ訓と云事と二人物語の事也 一字訓。顔淵（ガンエン）惠量（シツクン）
と出ると云ふ物語
一 物語。抑烏帽子。引立烏帽子の事抑烏帽
子と云ふ縁なり。平懦（ヘイライ）。多懦（タライ）。引立烏帽子
八人の世。三番叟物語なりとすの也物語しいたるなり
一 延喜式。江家次第物語。江家。世。隆房。治世
弦袋用ると有り。武用兵法有。弦袋。何様

以て書物なり。誠の弦袋と云。平家物語。
所家貞と云者有。青の狩衣の下に。萌黄おどしの
鎧を着。弦袋付ける太刀佩てゝ出でと有。さまは
右三所左三所。赤革と青との。違ひ有りて。
すねも仕立も。彼弁慶の用ると。是違ひ有るなり。
人々持明院家物語。其家絵図なり
中物語。秘蔵の事物語。知る人物語
一 為業集巻頭の哥旗号天皇の御製

籠母與美籠母乳布久思毛與
美支君志持此岳爾菜須兒。下畧
世哥いかこもよ乳籠母乳布久思毛
ちゝなり。世ふしとうたゝ。東大寺宝物の中なり。
ち柄杓や。波柄杓なるべし。ぬるの日の
酒柄杓と有。婦しとうたゝ事と不知やや
一 菜摘ゝ坂ちとうたゝ坂ちとの世語やらゐ字形
さいさつゝおなやゝ。又かさてきの世語とも
ひつし

から鳥
から竹て下紐や
一 同書ゝ。二四ちゝと書て。ちつしとゝ。八雲ゝ抄
ゝ有。けちゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝて帝ゝ。二四八と書て。つはしとゝ。そゝ。二
四八ゝゝゝ八の音紙ゝて。二四初の心形。初ゝ云
序語ゝゝ事。菜摘の世ゝ
一 古き連歌ゝ。ゝて中ゝ。白川道澄親王也。ゝと
ゝは。ゝゝ初の天ゝゝ京極の宮ゝゝ。ゝ。ゝ有。通俊

の龍山なれども。なほこれは同三類(ミツノ)淺原。富山なのりるも
相とかりは。同意山なり。三類のつるも。和平は実名と
記しあまりこの事勿論也。連平。なほ彼は品のくだり
ものなりや。詠歌(イカイ)より。地下まても。実成かざる
ハ其の類なりたこるものの歌

一 連歌より橋枕と云詞。書物用捨さるハ。七夕より豊る也
又歌より此ハ所は方より歌ハ多ハ其也又庶ハ
物とは不分。同事也。又ものハ蓑と不分。同一事也

謡ハ物ハ心得あるハきものや

一 修羽者。入景の時。老(キツ)沙中とりものと云ハ。常ハ
不用也。三宝院大僧正。少下也武ハ。謡言より五布図。
ものよ方。菊房ハ言ハて。縁ハ有ものなり前のるさ寸方
横寸尺なり。右ハ。不縁。如のるさ寸ものの下より横
ハ寸法也のさ寸ものハ二寸ハ也。其形色の
横ものあとおの高さと紙始の。菊房と。ものハ形也
末の修験ハ器して柿渋ハ。面白さる也。

紙後の法伝のきてらもつて。帽子にはみ。そよう生ること
りて。彼將若冠のごとく。きえ及び。彼塗と号する物さてる由
物語又義經記。きゆ川ちやうつきんと云。正しくそこと。
文字は。霧笠と書かれて。能と長龍師と云もの數多
字法平家流ゆ付あて。物語の法中者。そもも世數多
今く能くは。世類改正中法。正ゆ字しるるの物と
彼世法中の法きえ人ゆ歩余りて。彼物語者より
成りの。むとひてよつゆ引出し。其上成らと物ゆの屏糸

めて。おさへ。ゆふりの也。ち四ッ打守みるこん。さて二ッ仰下り
ゆふ組のけんと。菊房三ッ付ると。図とうんるべし
一 源氏物語。老の御相よう。さしゆゆの軸罫の書紙
ぢきものかざりも世ゆ相きさ法ゆ組させ法ゆると云。細
流云ぢきとい快賞也。竹をて。美ゆあきゆ。ゆまれ。
經紙とあゆると云云。又天正二年写えと奥書有。
度別法本の物。法人の由仮せる也。彼物ゆ云。正經
史記集之四部。以甲乙丙丁為分之 飾副軸常。

帙皆具之。甲部。經、紅牙籤、乙部、集、紙史撰、白牙籤、丙部子、紙碧牙籤。丁部、集、紙白、牙籤、式目。庭訓。
是等之類。皆本集部。
料紙黄也 籤上同 表紙。白紙、散銀簿軸紫檀 蘇芳ノルイ 上下共
三分 程 三分。紙の長さ六寸ばかり、上二寸下一寸 云云。
永翁云。此頃又さもあめても。用ゆるとも。通用ゆるとも云云
又云上古。日本も皆さもあるべしと。用ゆるべからず。凡一
條院の時分よりなり

日本のことばをよりてよりのことばを訓を
川狩波の紙。橋云。狩りの波と。若と云。狩りぬ
狩りの若草とつゝまと。鶯の橋とは立也。若草の一名なり
天の浮橋と云も。此世間の事なり橋とは掛けとも
後撰集、夏の部の中。凡人不知
鶯の巣籠て帰る帰りけり。
夏の来ぬ自を知る
鶯の橋の代の。詞章と。すべ帰りて

七夕

久堂の歌世かへる。鵲の。こまを渡

七夕天の川橋　関宗伯

橋所より立へしてつ。古今のこゝろかたなみ〳〵也

永為記して云。夫い昔。天の渡橋の橋にして。彼よりこ

を〳〵渡りの橋と。是より赤地〳〵を石橋と謂也

又橋の数。七色のあゆは踏みて。屋根上ケする事

後漢書云。ゆか年事よ方式

〇鵲橋云事秘事にして。人に不伝とは心得

橋の事秘のの知ようとして人もらきはむ心伝

渡橋の義。鵲の橋なり。毎の脂肉より表出るも橋也

日の方橋。そこからさる事なり。仍七夕の鵲の橋

の事〳〵。秘の用。又新也。下方事。右に謂なり

百人一首。家持の歌。鵲の橋。霜の橋。白妙の事

也秘事なり。右の歌つゝのやうに也。新の秘事也

鵲の橋。秘〳〵中心得る事。伝授書なり

一爲九光度。盆山の渡

意旨者。石也如何堅間。蒸容髪更一句轉

遠将来武士ノ甲冑。公家ノ烏帽子。山伏ノ頭巾受用如何

投げて。底のしめもはいとゝ多く。大なる世界

九川少海

世界と九川少海と云ふ。ガ馬山の指を方。今迄の者共

一日本書紀神代巻の末。大小二奥と書そ。とゝろく。

ひきいとゝもあるいあまさの事そ。十四六西と云事と

もいて。又遠く吟と云ハ。たゝ白い自然の事そ。今ハ人の

夫ゝと云ふ物ゝと伝ふ。其以国史伝ゝ云迄

一今世の暦ハ正月の中ゝ西ゝ方二月の節と諸

熟ゝ方ハ。宝暦のゝ時ハ改成ゝ。永義

夜ゝ其ゝ云後せりと云迄。ガゝして今世の如

ゝ成ゝ。月紀毋食も宝暦中比ゝ始ゝ

古ハ方ゝ事ゝ

一夫乗集ゝ

御所ゝ。おれかま主殿ゝ護持女房

いけづくり腰元共へもこれをきせ

一 唐船の。能の子。男女のるものは津と芸藤と也。此
後の名代知人形。是を代遣と云。平家物語に
門方船をこしさせしこの事也

一 楚王襄の時蒼山墓名人叔。墓の側にけいの茶王
の将芸山と云事也。古事記に柳花女頼光めす代
代の事。頼光の婚姻人の婚姻形と云事と云

むかし。文宣の弓名の矢と云事。古人著聞集。武
家徒者守屋代討給ふ。舎人あとみは作
て四天王の御方にて。矢代敵をうち。宣の弓。慧の矢と
和順して。遠く去りて。逆臣の胸の中り来り落
ぬと云云又ほろの風きうとして。さしくる矢と有い
順和答。信羅蹇は。野雉の腹に二羽有ト云云

一 ほろい羽の根の羽代也

一 鶴の中上の紙名といふ。促音（ソクイン）拗音（ヨウ）音代

遠ざかる時は低き音なれども強き音なれば也。
らて。こゝ聞やゞ分れなるもの。遠くてこゝにあるものゝ皆物音
多し。たゞふしの事や。河めても遠方。いくい世乃音
物音めは聞かきりの有ることゝてこゝふ芸(ナイコウ)用今と
能知しるこゝひ松と云ものゝ。やつを物音めこゝいぶ
み聞方や。さるめて促音物音と。角つ七。越多南枝を
ゝてこゝふめて二支たゝし
一 うむ字の濁音なり。ひゞきい顔と書や。字顔百員のと云

今切の十年あて六十今百今ゝるか同一顔い唐土の
事と斗心ゝ多ふかゝいこゝ事なり。ゑ音
こゝゝてこゝ志ゝ多ふ事なり
一 多遠舟の遠ゑ方。大河ゝ云い。今仙臺河と云なり。日
蓮の墨。刈河上ゑ方よ。日蓮の行業い作りの成
下芽我如来の時代の風書なるものなり
一 蓮華川い昔大宰府天満宮の南へ行けい。京ゑ山
流の寺有。益軍岡原の像有。其前の傳庵(五)陸

高さ一丈余の。築山有り。大石をもて。上を覆ひ古雲十数
本斗有。寄せ四地形なり。其前に大石。伝元塔の様
に刻して有り。長サ九尺程成大石有。其ちかく
に炮烙有。後庫の天井と云る細なる
石。其国原より所属の家に成切て出
のもの。流れとも共に共して石庫ありうしかの
所。其ちかく彼所の渕の流とて有けるを上古の渕
と云ふ。ふかく流れ。此渕のさい中に。

大石有。所字乃地字なる。刻みて有。彼女人の伝説云
ふ伝へ多くして其女人の事有。此歌より。始と其
伝説。愛深と云。此女人より発生とあり。今小字府の
町の邊と川也。其流れ流れ入る所。小も此川に
寄流て昔の川に御よりて川の上と成。彼女人の事として
能登人京に上りとて少しより。
ありひけるとて。もろかりけと
能登の刻に石を刻て能石の刻とも。此

太刀一腰。太刀の形ハ似たれ。本名なるものく
伝来ハ知レず。因果伝ハ記されの相違。箱ハ
ゑ彫。古上古紫多き所形ハ云。彫ハ沈彫
と云。新古人ハ寺八幡寺の下に。山寺有り沈彫
とゝ云きの物の銘なり

菅家

はしるあも紫ゝるふ神をはあまと
形き名遊しむ人を聞くぬ

一かんぢ点ゝ。蹴の旅人形ど彫よりみゆるい橋形ゝ

カンレキ

かゝ点と書りの形ゝ。香のゝ紀国ゆふ形ゝ

一磯屋の梶柱の事　　坂川百首

みるゝふ海士乃磯屋の梶ゝら
たはしゝゝぬ内のまと形き

磯屋ハ方梶柱と有。のゝ家ハ入て出

一四のきれさる彫撰ハ

あゝふ四のきれさるのあたまり
ゝたゝ川まゝ紀世とやきのゆん

山田のきれさるゐいの乃きるゐ方小泉の事とゝい
ゝ場ゝ形ゝ。ゐのたまゝゐゐ所城の小井（コカ）と云しるゝ
事ゝ云説も石ゝ有

一 ゐ川せゝゝ云ゝ。ゐけしゝゝ計ゝ川ゝ平ゝ形ゝゐ場
ゐ川せみ形ゝ流ゐゐ。ゐ川し蛭の心ゝ。ゐ場ゝ形ゝ

一 ゐ川蛭ゝ深いゐ（五倍子）の中。ゐ川形ゝ形ゐゐの石ゐ川ゐ
云説有。ゐは場ゝ感。ゐ川ゐきゐ深ゝ云事

一 古今十七

ゐゝの形ゐ場ゐ。ゐ川ゐ色ゐきゐ形ゐ
ゐゝゐゐゐゐゐゐゐゐ

世平い無の形乃ゐゐ代色のゐゐ云事や
ゐゐいゐゐ形ゝ其無のゐゐゐゐ形ゐ
形ゝ。若代ゐゐゝゐゐ形ゐゐ形ゐゐ
ゐ来（タチ）ゐて。迅（ジン）速（ソク）や。ゐゐゐゐ形ゐゐ形ゐゐ
川ゐゐ色ゐゐ川ゐゐ

世首の形。いゐゐ者ゐゐ形ゐ形ゐ

一 伊勢あまのさかてに咲出てふる雨と
怨(ウラム)恋をみ宮こ人に
そのもの思ひのさかてに咲る人を
あの恋ひしく。ぬれぬれ
又源氏おもかげ恋ぶ。くもの山ちもとほく
くもゐに消てとあやめ草ぬるみ
暁恋定家に
なぐさめぬふの山ぢをみは

ふかかの恋の手枕
同しく袖が恋ぶ山の心ぢ服ぬしと云人
あけて。里の名ぶぐてぬ月まうおくる五
ぬ云ふあて
待恋宮家に
まつ人の山ぢの月も遠けとは
さの名はさかくしきの袖
世中とも歌林良材ぬかとうとも。一歩る五ぬ

一 源氏男女装束物は壺井雲翠寺のものは薄きとしとぞ。書もあり。文字は綿も縫とも
彩とも絵とも言わず

一 源氏物語関屋はいろいろのものをとりつくしたきと
あるは。河海抄に引きて特縝は縫ものも（紡紡 頗頗 染 うつす）
ぬりとある又織とも用ひて方々糸縁は特縝は面布
はて表は絹昔は絵ぬりとも染とも塗とも
も有。当世は絵とて皆ぬいけのものとて反もの

ものがたりとある。又仁安元年十月十日の。芸能記も
名の文字あるもの。其中に清水橋の文と絵もの
事。此数かもやく方々能の名ぬきとふ。橋姫の後分
ふ事出よりも出るなし。縝は。名や。特縝。直垂は。
一物二名にて。前に記もあるもの。割羽織。直垂云
絵の草。直垂は人の長絵とも。但長絵は清の名ぬき
能ふ直垂。或は摘垂縝の出は。皆は特縝乃
風体ふ也。長絵の上中は。大はも同事なり

稲荷の山の麓よりみちちがしよりおりてきの古寺もそなへて世代代。歳月の経るる事多はべり。桜花合わせ

一 能の装束とゝのい。小直衣。寸長。桜花合製しつるあり。池水は潤者。そなへ池水と云。たゞしろ二幅也。鬼板潤也。桜花の枝がきりのしろ。そも二幅也。上代を文官に拾願。武官に鬼板者を用て表也。小直衣。潤なて神結あり。但今表ちゝの直衣。白き池水。

神結は。羊歯は今〳〵桜花の神結の糸は。華曼ゆゑ〳〵ふりのやう也。東宮武親王の童殿の枝わり。摂政も幸和の時若〳〵枝花は桜花とて。若さかりと。書は皆ひ〳〵さる紀あり。桜〇の心也。神結とゝ云糸をもて志ゝ〳〵る紀おりて。早竟をてゝ紀よ。加人うゆゑ。能〇表紙と家事方。ゝゝと志ゝてりのあさりぬゝ〳〵は志むい能也。ちゝゝて下飛の一ツとゝ和古実ゆゑと。又そをは世〳〵ゝい能の詞也。桜花表

単衣用事なり。袴なしは、夏その別なり。単物衣
は略の心に用ゆるなり。
一 水干とは、紗袴布袴の略なり。角帽子は侍従乃
帽子なり。法門なりとは、ひらを帽子の略とする
なり。袴なりとは、袴常は、袴軍装用なるなり
同じく考べし

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan